

一八八四年一月四日(金)

聖ラーマクリシュナとモニ——もう考えるな

今日は金曜日、キリスト暦一八八四年一月四日。午後四時ころ、聖ラーマクリシュナは五聖樹の杜に坐っておられる。にこにこしていらつしやる。いっしょにモニとハリパダがいる。ヒーラナンダ・チャトジェーの話をハリパダたちとなさり、また、ゴシユバラの靈性修行の話もでた。

やがて、聖ラーマクリシュナは自室へ戻ってお坐りになった。モニ、ハリパダ、ラカールたちが師と共に生活し、モニは大方の時間をベルの樹台^{クラ}で過^スこしている。

聖ラーマクリシュナ「モニに向かつて」もう考えるな。考えてばかりいると、しまいにダメになるぞ。あの御方を呼ぶときは、一つ自分の態度^{バウツ}(気持ち)を決めることだ。友だちの態度か、召使いの態度か、子供の態度か、または勇者^{フイール}(挑戦者)の態度か。

わたしは子供の態度だよ。この態度を見るとマヤーの女神は道をよけて下さる——恥ずかしがつて。勇者(ヴィール)の態度は大変にむずかしいものだよ。シャクテイ派の人やヴィシヌ派の遊行僧^{パウール}たちの仲間にはこの態度をとる人がある。この態度を正しくとりつづけて行くのには大変な力がある。ほかにもあるが——静かな気持ち(シヤンタ)、召使いの気持ち(ダーシヤ)、友情(サツキヤ)、母性愛の

気持ち（ヴァツァリヤ）を持つたり、愛人（マドゥラ）のような態度をとったり……。愛人の態度の中にはほかのみんなが含まれているんだよ。静かな態度も、召使いも、友情も、母性愛もみんな！（モニに向かつて）お前はどの態度が好きだい？」

モニ「どれもみんな好きでございます」

聖ラーマクリシュナ「全てが好きになれるのは、完成した境地での話だ。この境地になると、情欲というものは全くなくなるんだよ。ヴィシヌ派の聖典に、チャンデーダースと洗たく女の話があるが——あの二人の愛情には、情欲のカケラもなかったんだ！

この境地では、プラリチ女性の気持ちになるんだ。自分を男とは感じなくなる。ルーパ・ゴースワミーはミーラー・バーイを女だからという理由で会おうとしなかった。するとミーラー・バーイはこう言うよこした。『プリンダーヴァンにおいては、聖クリシュナだけがたった一人の男で、ほかの人は全部、そのたった一人の男性に仕える侍女であります。ゴースワミーどの、あなたが自分を男だと考えているのは、まさしくウヌボレではないでしょうか？』（訳註——ルーパ・ゴースワミー、ミーラー・バーイ、いずれも中世におけるヴィシヌ派の聖人）

日が暮れてからまた、モニは聖ラーマクリシュナの足もとに坐っている。知らせが来て、ケーシャブ・センの病気が一段と悪くなったとのことだった。話はケーシャブのこと、また彼の指導するブラフマ協会のことになった。

「聖ラーマクリシュナ」（モニに向かつて）ウーン。あそこで講演レクチャーだけやっているのかい？ それとも、

瞑想もするんだろか？

ウパイサナ(訳註)
拝礼と言っているようだが――。

ケーシヤブは以前、キリスト教やキリスト教の考え方から、だいぶ影響を受けていた。その当時、そのもつと前から、デベンドラ(タゴール・タクルのところへ行っていなすつた」

モニ「ケーシヤブさんでも最初からここへ来ておられましたら、そうすればあんなに社会改革に血道をあげることもなかったでしょうに――。カースト制度の廃止や、未亡人再婚のことや、異カースト間の結婚や、婦人教育のことなどの社会活動で、あんなに多忙をきわめることもなかったでしょう」

聖ラーマクリシュナ「ケーシヤブは、今ではカーリーを認めていなさるよ。チンマイ(霊/意識の具現)としてのカーリーを――根元造化力をね。その上、マー、マーととなえて称名讃歌もしなさる。

それはそうと、ブラフマ協会のようなものが、これからも根付いていくと思うかい？」

モニ「この国の風土とは合わないと思いますが。正しいものであれば続いていくでしょう」

聖ラーマクリシュナ「そうだよ、リシたちが悟ったサナータナ・ダルマ(永遠の宗教)だけがずっと続いていくんだ。でも、ブラフマ協会やあいう種類の団体も、少しは続くだろうよ。すべては神の意志によって出来たりなくなったりするんだよ」

午後カルカッタから数人の信者たちが来て、歌をたくさんタクルにお聞かせしていった。そのなかにこういう歌があった――

大実母¹よ、あなたは私たちに赤いオシャブリをくわえさせてだましておく

私たちがオシャブリを投げ捨ててあなたを求めて泣き叫んだら

あなたは必ず走ってきてくれるだろう

その歌についてタクールは――

聖ラーマクリシユナ「(モニに向かつて) あの人たち、赤いオシャブリの歌をさかんに歌ったね」

モニ「はい、あなた様がケーシヤブにこの赤いオシャブリの話をなさいましたから――」

聖ラーマクリシユナ「うん。それに心の大空の話も――ほかにも沢山いろんな話をしたっけ。楽しかったなあ。歌ったり踊ったりしたっけ」

(訳註) ウパーサナー――ケーシヤブ率いるブラフマ協会では、讚神歌を歌ったり、講話を^{レクチャー}したり、お祈りをしたり、瞑想したり、キリスト教のやり方も取り入れた拝礼様式一式をウパーサナーと呼んでいた。ウバは、近く、アーサナは、座るの意味で、本来はマントラを受けた修行者が神に近づくために、熱心に神を念想することを指すが、祭祀や礼拝や苦行など神への礼拝修行全般も含められる。